

# インテリアコーディネーターの業務に対する評価

インテリアコーディネーターの現状と課題 その2

奥村 美鈴\*, 角本 亜弥\*\*, 片山 勢津子\*\*\*, 加藤 力\*\*\*\*

## Evaluations of Working of Interior Coordinator

Actual Conditions and Problems of Interior Coordinator Part 2

OKUMURA Misuzu \*, KAKUMOTO Aya \*\*, KATAYAMA Setsuko\*\*\*, KATO Tsutomu\*\*\*\*

### 1. はじめに

インテリアコーディネーター（以下ICと略す）の資格制度が制定されて25年以上が過ぎ、職能としてのあり方等について検討が必要とされる時期だと思われる。本稿は、前稿のヒアリング調査結果を踏まえ、調査対象者を広げアンケート調査を実施した。ICの現状の業務内容と課題について、より定量的、具体的に抽出し、考察しようとするものである。

### 2. 調査方法

調査対象者は、(社)インテリア産業協会関西支部所管のICで、メール登録しているIC資格保持者にWEBアンケートを実施した。支部に所属するIC8,687名のうち、メール登録しているICは3,546名である。アンケート調査回答者は322名、このうちICとしての仕事経験のある314名について集計・分析を行った。

質問項目は、主にIC業務の現状、雇用形態、仕事に対する自己評価、所属企業や顧客との関係などについてで、調査期間は平成20年11月10日～20日である。

### 3. 結果と考察

**被験者属性：**平均年齢41.7歳、男女比1/3.76、IC資格取得後平均8.5年、ICとしての勤務平均8.2年、勤務形態と勤務先分類については図1、図2に示す。

**住まい手との関わり：**ICの定義に「…消費者に対し商品の選択、インテリアの総合的構成等についての適正な助言とアドバイスを行う」とあるが、住い手との直接の関わりを持たないICが約1/3あり、それは『建材』『住宅設備関連業務』に多い(図3)。これらの企業は、住宅メーカーや工務店とのコンタクトが多く、消費者との関係が少ないためと推測される。一方、直接的に関わると回答したICの割合が高いのは、『不動産関連』『家具関連』『ファブリック関連』『自営またはフリー』であった。

**業務内容：**業務内容については以下の区分で尋ねた。ここでは、前稿で触れた間取りを扱うプランニングとエレメントのレイアウトプランニングについては区分していない。

①契約（営業、見積もり、契約立ち会い）

②プランニング（打合せ、プランニング、カラーコーディネート、プレゼンテーション、見積もり）

③エレメント選択（エレメント選択、プレゼンテーション、見積もり）

④実施設計（実施設計、打合せ、監理、検査）

⑤竣工後（アフターサービス、顧客監理、その他）

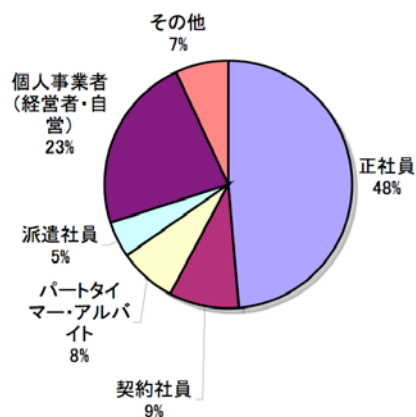
全体的に多いのが、契約後に行われるプランニング、次いで多いのが、エレメント選択であった。エレメント選択は、インテリアエレメントを扱う企業のICや分業化の進んだ組織の属するICに多いのが特徴である。逆に、『自営またはフリー』のICは、トータルに業務の展開が進められる。このように、所属企業、組織の違いによって業務内容には特質があることが、改めて確認できた。

**やりがい：**やりがいについての5段階評価の結果、プラス評価が7割を越し、多くがやりがいを感じていることが分かった。特に、仕事に全般的に関わっている『インテリアショップ』『デザイン・設計事務所』『自営またはフリー』の順でやりがい度が高い。「どのような仕事であればやりがいが感じられるか？」の問いに対して、消費者と直接関わられる仕事が多かった。やりがいのない理由については、会社のシステムの問題をあげた人が最も多かった。ただし、正社員が必ずしもやりがい度が高いとは限らない結果となった。

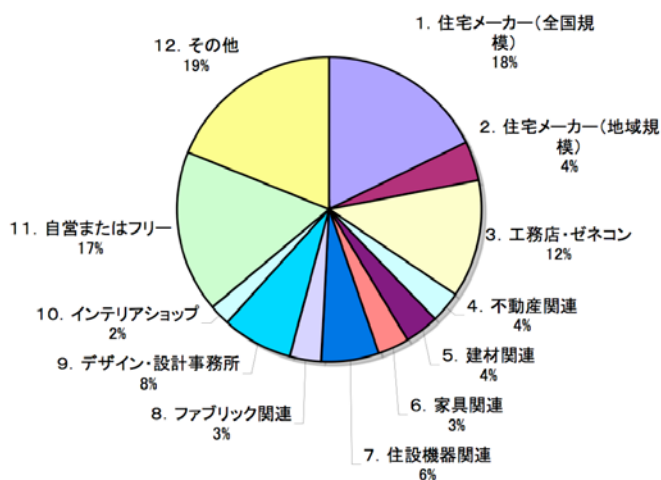
**IC本来の仕事：**「IC本来の仕事をしているかどうか？」の問いに対して、1/3が肯定し1/4が否定した。本来の仕事内容についての自由回答で多かった内容は、「インテリアのコーディネート」「エレメントの選択」「希望や好みを把握した上で提案を行うこと」「快適な暮らしの提案」「営業・契約からアフターサービスまでのトータルな仕事」「顧客と現場の橋渡し」「顧客が望む以上のものに仕上げること」などである。本来の仕事をしていない理由としては、「IC以外の業務も行っているため」という回答が最も多かった。

**雇用先との関係：**5段階評価で尋ねた結果、プラス評価が7割近く、多くが肯定的に捉えていることがわかった。

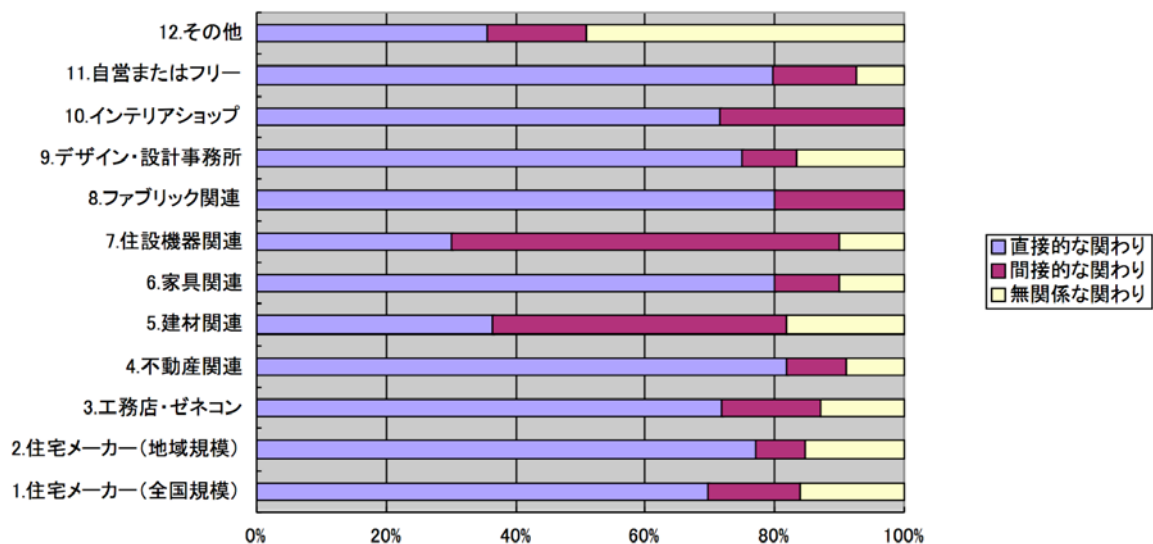
〈雇用形態〉



〈勤務先〉



〈顧客との関わり方〉



良好な理由については「仕事に対して理解・評価してくれているので」が最も多かった。逆に、良好でない理由は様々で、雇用形態をあげる回答が最も多かった。

**顧客との関係**：5段階評価で尋ねた結果、プラス評価が8割近くを占め、概ね良好である。良好な理由は「信頼関係のある人間関係」などであった。逆に良好でない理由としては「顧客に接する機会が少ないため」が最も多かった。

**IC以外の資格**：二級建築士と福祉住環境コーディネーターの有資格者は3割を超えた。また、『自営またはフリー』に「IC資格だけでは仕事をやっていくのが難しい」という意見が見られた。

#### 4. まとめ

所属する企業によって、業務内容に違いがあることが確認できた。多くは仕事にやりがいを持っている。本来の仕事は、コーディネートやエレメント選択、顧客との橋渡し、トータルに仕事を行うことをあげている。本来の仕事ができない場合、やりがい度が下がる。二級建築士、福祉住環境コーディネーターの資格を3割が保有する。今後、企業に対してもICの機能に関する調査を行う必要がある。

【謝辞】WEB調査にご協力いただきましたICの皆様にご心より感謝申し上げます。

(\*ドワンゴ㈱, \*\*パナソニック電気ホームエンジニアリング㈱, \*\*\*京都女子大学准教授, \*\*\*\*宝塚造形芸術大学大学院教授)